

おお大勝利

令和4年度 山東サッカー部報第8号 (9月2日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

3年生 7月半ばまで完全燃焼

例年山東では、山形県の他の進学校とは異なり、県総体後即引退ではなく、県リーグ1巡まで競技を続ける¹。大体、7月前半まで。まあ、野球部や吹奏楽部も7月までやっているし、サッカー部だけ目立つことではないが、他の進学校が追随しないのはなぜなのだろう？ 他の進学校の顧問には、「1巡までやらせましょよ、選手権まで引っ張れたらなお良いですが」とお誘いしているのですが。部報前号でも書きましたように、リーグに参加する以上、同じチームで1巡した方が公平だと思うのですが。

そして、今年の3年生、1巡では飽き足らず、高橋コーチの誘いもあり「県リーグ初戦で負けた第8節城北Bに勝って引退したいよね」「ならその二日後の第9節明正B戦まで戦っちゃおう」などの声が多数を占めた模様。まあ、いろいろな思いがあった3年生もいたようだが、その話はここでは割愛。ということで、まずは、Y3A第7節鶴岡工業戦、第8節山形城北B戦、第9節山形明正B戦を続けて報告します。

でも、その前に触れるべきことがあります。小学校の低学年？を山形で過ごした**今村匠実**さんという方がいて、現在、スペイン3部のアロ・デポルティーボでDFとして活躍している。また、現役選手にして、他チームの2部デポルティーボ・アラベス²のスタッフも務めている³。日本では、OSA フォルトナ山形フットボールクラブ ⇒ 柏レイソルジュニア・ジュニアユース ⇒ 流通経済大学柏高校⁴ ⇒ 慶応大学 とチームを渡り歩いた。サッカー選手の夢をあきらめず、飛び込みでオーストラリアのチームに行き契約を勝ち取り、プロサッカー選手を始めるなど、行動力が半端ない。その方が、オフで山形に来るといふ機会をとらえ、**フォルトナにゆかりのある高橋コーチが話をつないで、臨時コーチとして来てもらった** (7/5,6,8,9)。サッカー部の練習オフの日は、講演もしてもらいました (7/7)。山東の選手たちは今村さんの話にお世辞抜きで目を輝かせて聴いており、講演会でこんなに質問が途切れることはないというくらい、時間の許す限り質問攻めをしておりました。その今村さんが、いろいろなことをコーチングしてくれたのですが、なかでもビルドアップ時の考え方、動きの基本、攻撃の狙いの一つを整理して練習に落とし込んで

¹ 県リーグは2回総当たり (2巡) 制。

² 2020-2021 シーズンは1部に在籍も、降格。

³ 今村さんの話だと、このようにプロ選手が他の仕事を抱えていることはスペインでは当たり前とのこと。だから、プロ選手のセカンドライフなどが日本では話題になるが、スペインでは同時並行的に様々な仕事をしているとのこと。今村さんも、スペインへのサッカー留学生の世話をする会社や不動産業など、多岐にわたる仕事をされています。

⁴ 選手権と高円宮杯ユースサッカー選手権 (現在で言えばプレミアリーグ) のダブル優勝をした伝説の代。

くれたので、その成果を示そうと、鶴岡工業戦にて選手は内心期するものがあった。

さて、**7月9日(土) 鶴岡工業戦**、場所は山形明正 G。今村さんもベンチ入り。選手起用は顧問がしたものの、試合中のコーチングの多くは今村さんにお任せした(はず)。練習通り、丁寧にビルドアップを繰り返す山東。**GK ジャッカ**ルは良いキック持っているし、DF陣もチャレンジしていけば上達が見込める選手たち。高い位置を取る(相手ゴールにより近い位置を取る) SB が、内/中に絞る SH の作ったアウトサイドのスペースに FW を走らすなど、**狙いの「ニア⇒ニア」の攻撃**などで山東が有利に試合を進める。どうしてもこれまでの山東は、CB のキックによる一発裏狙いが多く、攻撃が単調になりがちだった。また、ボランチが SB の位置まで下りて、SB・SH をより高くポジション取りさせる際の約束事など、今村さんの実践的なコーチングを実行する山東。**練習で行った狙いの攻撃が、実際の試合でしっかり有効に機能するのが実感され、やっても観ても楽しいサッカーを展開してくれた**。結果**3対1で勝つ**のだが、個々のプレーのあれこれより、今村臨時コーチによって山東に新しい戦術が導入されたというのが大きかった、この試合。一つだけ、あるプレーを報告。この試合、**FW で起用された 1 年ショーゴ**が、中央よりやや右サイド、センターライン付近でボールを受けると、そのまま縦に加速⁵。得意のスピードで相手をぶち抜き、そのままニアサイドを打ち抜くファインシュートを決める。入部以来、左サイドでの仕掛けばかり目立った彼ですが、「**右でもやれるぜ**」というところを強烈に示したワンシーンでした。ともかくも、**今村さん、本当にありがとうございました。山形に来ることがありましたら、また寄ってください。**

7月16日(土) 山形城北 B 戦、会場はまたまた山形明正。前回の対戦 4 月 9 日第 1 節では、前半の逸機で後半までスコアレスで行くと、粘り強い試合運びから後半得点されてしまい、0 対 1 で悔しい負けを喫している。さて、この試合・・・と解説したいところですが、正直よく覚えていません。ただ、**山東サッカー部後援会の誇る「我が後藤報道局長」編集の HP**で確認し、少し記憶がよみがえった勢いで書くと、**スコアは 4 対 0 で山東の勝利**。前回の敗戦を吹き飛ばす勝利となった。4 点のうち 3 点は相手のプレーを高い位置でとがめ奪って決めたもの。山東が崩した得点ではない、ということが言いたいのだが、様々な得点パターンがあった方がいい。ビルドアップのはまった前節のショーゴの得点も素晴らしいし、フォアチェック(前線から嵌めに行く守備)で奪ってショートカウンターも立派な得点。それ以外の 1 点は**3 年ボランチグッチ**の左足のファインミドルシュート。あまり覚えてないけど(前に決めたボレーの印象強すぎて)。

7月18日(月) 山形明正 B 戦は、とうとう 3 年生の代の最後の試合。会場は山形中央、クレー。明正はいつも人工芝で練習しているだろうから、クレーの試合に慣れていないだろう。その段階でうちが少し有利だ。しかも雨でぬかるんだピッチ状況。ますます泥仕合に強いうちに有利だ。そんなことを監督が試合前から考えていたから悪かったのか、この試合、**結論から言うと、0 対 1 で敗戦**となった。3 年生最後の試合だから笑って終わりだったのが、まあ、この代はここまでたくさん笑うことができたから、「お疲れ様、ここまでありがとう」という言葉がふさわしい。**本音で言えば、3 部ではなく 2 部で戦うこの代を**

⁵ そのまま、と書きましたが、相手 DF はショーゴの仕掛けを許す<間>を簡単に与えておりました。相手 DF がすぐボールに飛び込んだらショーゴは交わっていたでしょうか。すぐ間合いを詰められても交わせる選手がゆったり仕掛け始めると相手は怖いですが、果たしてこの時ショーゴ君はどうだったでしょう。

見たかった。明正 B は、この期間、山形大学から筑波大学大学院に行ってコーチングを学んでいる**山東 OB のカンタ** (山東 68 回卒) が外部チーム指導実習という教育実習のサッカー版で指導していた。「彼に負けるわけ行かない」など思わなかったけど、3 年生最終戦に勝ちたかったし、3 年生のいるうちに勝ち点を稼いでおきたかった。しかし、雨で時間をずらして開始されたこの試合、前半こそ山東が決定機を迎えるなど有利に進めるものの、クレーを苦しめないというか**A チームとの連続昇格に向け気合の入っていた明正**の選手がしっかりルーズボールを回収し粘り強く対応してくる。後半徐々に押され始め、後半の中盤にとうとう失点してしまう。その後、焦って攻めるも、いずれも精度を欠いた攻撃となり、ゴール前にしっかり迫れない。逆に明正の守備の集中力が素晴らしかった！ **これまで退部した 3 年生の応援**むなしく、最終戦を 0 対 1 で落とす。一回目の対戦で 3 対 0 で快勝していることから来る慢心があったわけではない、逆に明正 B の勢いを相当恐れて試合に臨んだ。悪いピッチコンディションを前提に縦にシンプルな戦いをしたが、もっと丁寧に行くべきだったか。明正は収めるところはしっかり収めつなぐ所はしっかりつないでいた。

ということで、最終戦を勝利で飾れなかったが、**リーグ戦を 1 勝 2 敗で折り返し、得失点差でここまで辛うじて 1 位**を保ち、3 年生は引退することとなった。3 年生お疲れ様！

そして、**7 月 20 日 (水)** 放課後、**3 年生部員の引退式**が学校にて行われました。以下は、主に 1・2 年生に対する 3 年生のスピーチの要約です。

コンニャク

副部長だったが、辞めると何度も言った。けどみんなの支え合って最後までやり切り、達成感あった。

タリョウ

食事係として、他人に食べさせるのがうまくなった。この学年はサッカー好きが多く、引っ張ってもらった。

シュンスケ

1 年次フィジカルが弱くボールロスト多かったが、努力を怠った。2 年次に反省し、暴飲暴食しトレーニングを積み、フィジカルを上げて、パフォーマンスを上げることができた。ヘディングが高校で一番伸びた。

シカマ

ケガで 1 年棒に振って精神的にも追い詰められたが、仲間の存在があり、続けられた。その時期があったことで、感謝の気持ちを素直に持てて人間的に成長できた。1 年生はヤンチャな部員が多いので、久世先生宜しくお願いします。

ミスキ

みんなより先に引退したが、それで気づいたことがある。継続性と目標設定がモチベーションにつながるということ。目標設定はどこに向かっているか明確になる。

グッチ

他人の話を知ることができるというのは一つの能力。納得のないことも簡単に突き返さず自分の中にいったん入れてから吐き出せばいい。山東サッカー一部で活動できて幸せだ

った。

三十三

3年生は途中入部の私をやさしく迎えてくれてうれしかった。1・2年生は入部当初からマネージャーのいる環境に甘えず、一人の部員として貢献しようと頑張るマネージャーへの感謝を忘れないでほしい。

ゴッちゃん

サッカーではプレーの決断は最終的に選手が行う。仲間を大切に。辛い時こそ声を出す。サッカーは楽しむものなので笑顔で頑張れ。

カクタ

辞めようと言いつつも結局辞めない仲間と支え合った。勝負がかかったときに自分で行けず後悔することが多かった。勝負時では自分を出せ。

ジャッカル

1年次10月に、わだかまりなく GK へ転向したわけではなかったが、天職を得た気持ちがある。FP の時感じなかった毎日伸びる感覚あり楽しかった。高校生活は戻れない、部活動の時間はキラキラしている。辞めずに、自らの成長を楽しめ。

夏合宿・遠征を経て新チーム始動

当初新チーム初戦と思われた7月23日 Y3A 第10節山形中央 C 戦が諸般の事情で延期となったので、新チーム初戦は8月に持ち越しとなった。そして、サッカー部は、**7月30日～8月1日の2泊3日の日程で恒例の月山合宿**を敢行⁶。練習は朝5時からと夕方からの2部練習。その間は休息と勉強。もちろん、**月山志津温泉えびすやさん**から**弓張平公園**までの行き帰りはランニング。ご飯は大盛り。そして最終日は、112号線から姥沢駐車場まで走る**恒例の「月山登山」**での締め。初日午前の坂道ダッシュ&レンジ&ハムストリングス・大殿筋の筋トレにより、足・ケツがパンパンな状態でこなされる月山合宿により、今年も選手は心身ともに鍛えられました。でも、今年月山登山中に熱中症で倒れた選手がおり、たまたま顧問車が通りかかって治療できたから良かったが、タイミング悪く拾えなかったら危なかったのも、来年からは登山はやらないかもしれません……。月山登山に優ると劣らない恐怖のトレーニングを来年まで考えましょう。定宿えびすやさん、荷物を運んでくれた保護者会の皆様、ありがとうございました。

そして、**8月6日は山東サッカー後援会主催のサッカーフェスティバル**を実施。上は**山東35回卒の齋藤さん**、下は大学1年生の72回卒まで幅広くプレー。43回卒の私も諸先輩に負けじとプレー。今年は、早朝のランニングの成果を見せ去年よりも良いプレーをしようと意気込みましたが、まあ大したプレーはできませんでしたね。**63回卒のホリゴメ**へのスルーパスがアシストになったのはうれしかったですが、齋藤さんに良いパスを供給で

⁶ 30年以上前まで、山東サッカー部の夏合宿は学校の合宿所に泊まり行われていました。しかし、32年前、その合宿で1年部員が熱中症で亡くなるという重大事故があり、それ以降、サッカー部の合宿は山の涼しい所で行われております。ずっと蔵王で行われてきましたが、15年くらい前に定宿だったところが火事で燃えたのを機に月山に切り換えて今に至っています。

きなかった後悔がある。また恒例の3年生対1・2年生も行われ、3年生が順当に？勝利した模様。来年は3年生が勝利できるか。プレー後には、またもや恒例の洋風庭園（中庭）での激励会。例年は佐門のもつ煮を頬張る会でしたが、佐門さんからお断りされたので、数年前から**タイ料理シーロムさんのタイ風スープ**に切り替わった。皆で缶とスープを口にしておいて、また諸先輩からの激励のスピーチ、そして3年生の決意のスピーチ、2年生主将の抱負のスピーチを経て、終了。今年も、山東サッカー部は巣立つ場であり帰ってくる場でもあることを実感しました。

8月8日～10日は秋田遠征。久々に県外遠征できました。3年ぶりです。1・2年選手の数は23名と2チームエントリーを考えるとギリギリですが、現役プレーヤーの**佐竹コーチ（山東43回卒）と高橋コーチ（山東46回卒）**が帯同するので、少し余裕がある。**2年マゴロクことカイ**が腰痛で離脱中なので、高校生だけ考えると2チームでプレーするのに一人も欠けられない。そして、実際途中からは離脱者が出て、コーチがプレーしないことには人数が揃わないし、攻撃もままならないこと（攻撃はコーチ次第）になった。両コーチ、お疲れさまでした、ありがとうございます。この秋田遠征、やはりチームがまだできていない中なので、**様々なエラーがありました、その中でも多くのトライができて**、やっとこのチームで戦う輪郭がうっすら浮かんでくるくらいまでには行くことができました。そして、最も心配されていた**大きなけが人を出さずに**終わることができた。対戦した秋田のチームはどこも、我々よりもサッカーが上手で、かつ、下手な我々に対して緩むことなくアグレッシブに戦ってくれて、本当に我々の強化になる遠征となりました。秋田の皆様、ありがとうございます。そういえば、帰りに、佐竹コーチが、好きなサッカーができて、そして、子ども（2年ヤマト）の成長の伴走ができて、「幸せだな～」としみじみ語っていたのが印象的でした。

そして、すぐ8月11日に、延期となっていた県リーグ山形中央C戦があったのですが、山東側に体調不良者が続出し、再延期に（10月22日まで延期）。結局、新型コロナ陽性者は1名のみでしたが、ともかく部活動停止となり、そのままお盆休みへ。

お盆休み明け、部活動停止明けてすぐ、**8月28日**学校祭真っ最中に**第11節東海大山形C戦**が行われた。その試合、まだ体調不良者がおり、秋田遠征と同じメンバーで戦えたわけではなかったのですが、試合中盤までスコアレスで粘れた当たり、秋田遠征の成果を感じざるを得ない。しかし、ミスが重なり、もったいない失点をしてしまう。まだまだこの若いチーム、堪えることができない。後半ラッキーと感じるPKを得て、同点にするも、最終ラインにミスが出て、またも追いかける展開に。そしてすぐ、今度は相手にPKが与えられ1対3。変なPKがあると、主審にお相子にしようという気持ちが働いて相手チームにPKが与えられるんだよな～などとベンチで語っていたが、まさにそうってしまった。山東に痙攣する選手も出て、後半多くの選手が交代でピッチに入る。**腰痛でずっと離脱していた2年マゴロクことカイ**も、10分間でしたがはつらつプレー。正直、ブランクをあまり感じさせない動きのキレがありましたね。そして、FWとして「とにかく裏に走れ、下りて来るな、前線でしっかり守備をしろ」とシンプルな指示を受けてピッチに降り立っ

た**2年カルロスことトシキ**が、春先に引き続きやってくれました。終了間際にもらったFK、ファーサイドに蹴られたボールはGKもそのファーサイドへ弾く。するとそのファーサイドの絶妙な角度から詰めたカルロスのところにボールが転がる・・・時が止まりました。無人のゴールに難なくボールをねじ込み⁷、**終了間際の得点**に山東ベンチが沸いたところで、タイムアップ。**結局2対3**で新チーム初戦を落としましたが、得点直後だったので、あたかも勝ったかのような高揚感が試合後にありましたね。さすがカルロス、何か持っている（それは何か）。

次はいよいよ地区新人戦。今週末から始まります。**初戦勝利の上、その後どこかで1回でも勝つと県新人に行けます（地区の枠は1）**。山形中央Gと山形市球技場、県総合運動公園第二運動広場は観戦可能ですが、**山形明正Gは（選手権のみ観戦可になるものの）観戦不可**ですので、保護者の皆様宜しくお願い致します⁸。

9月3日（土）地区新人戦 山形工業戦 13:30～ @山形明正G

⁷ いや本当は、まっすぐ蹴ればすぐネットを揺らすシーンでしたが、なぜかカルロス、あわてて飛び込むGK側へと蹴ったので、危うく止められるところでした。

⁸ 保護者カメラマンのみ観戦可です。もちろんスタッフの一人として登録している清野総監督（後援会名誉会長）、工藤先輩、後藤報道局長は観戦可です。